

みなとぴあボランティアレター 第27号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ/2015.7

4/26 ボランティア総会 新年度スタート！



2015年度新規ボランティアのみなさん

4月26日（日）、新年度ボランティア活動の幕開けとなる総会が開催されました。

新規ボランティアは19名！全員で98名となりました。通常のボランティア活動のほか、新企画ガイドプロジェクト「クイズラリー」や、歴史にちなんだ衣装でガイドしようという「コスプレ研究会」など、イベントも盛りだくさんですが、ぜひご自分のペースで参加して、気軽に博物館へ足を運んでいただければと思います。

これからどうぞよろしくお願いたします！

4/29 にいがた歴史探訪 春の遺跡めぐり

今回は「小林次長とゆく！春の遺跡めぐり」と題し、ボランティアの高橋務さんの企画で、胎内市にある「城の山古墳」をメインに、小林隆幸学芸担当次長に道中の説明を聞きながら遺跡をめぐる贅沢な歴史探訪となりました。

新年度早々の4月に開催が設定されたのは、ぜひ桜の季節に、という配慮から。残念ながら今年の桜は一足早く咲いてしまいましたが、色鮮やかな新緑をたのしみながら遺跡を散策できました。

まわりを水田に囲まれた中にポツコリと盛り上がった印象的な「城の山古墳」では、古墳にのぼって、胎内市教育委員会の水澤幸一係長のご説明を聞くことができました。その後「奥山荘歴史館」で古墳の出土品を見学し、さらに中世の城館「江上館」の復元史跡を歩きました。午後は、村上市の「縄文の里・朝日」を訪ね、職員の方の展示解説を聞きながら、三面ダムに沈んだ村の習俗と縄文時代にさかのぼる当地の歴史を遺物で知ることができました。

豪華な講師陣のお話しを聞き、充実した内容となった今回の歴史探訪、31名もの方にご参加いただきました。企画をしてくださった高橋さん、旅程の手配をしてくださった伊豆田芳宏さん、誠にありがとうございました。



城の山古墳の前にて

日々の活動 体験編

前号で、敷地・常設のボランティア活動の様子をご紹介したのに続き、今回は体験ボランティアについてご紹介します。主な活動は、たいけんのひろばで、来館者が見て触れて体験しながら昔の暮らしや知恵を知る、そのサポートです。

ほぼ毎週の土日および祝日に開催される体験プログラムでは、サポートだけでなくボランティア主体で企画・実施してもらうプログラムも多いです。また、むかしのあそび研究会など、定期的に行われる自主勉強会もあります。ほか、主に小学生の見学にあわせて、展示してある昔の生活・あそびの道具について説明し、実際に触ったり使ってみる体験学習も、体験ボランティアさんが大活躍する場です。

上左: ボランティアさん設計の紙ヒコーキ製作プログラム
上右: これもボランティアさん企画、簡単裂き織りコースター作り
下: 小学生の体験学習、天秤棒をかついでみよう



幅広い年齢層の方が、体験を通して歴史の一端に触れるたいけんのひろば。ボランティアのみなさんそれぞれの興味関心、ご経験や創意工夫、ご配慮によって支えられています。



ワラの文化に触れたくてワラゾウリ自主練習会に参加しています。はじめは左右のゾウリの形が揃わなかったものが、今は、自分なりに満足いくワラゾウリが作れるようになりました。

布を使って鼻緒に変化をつけて、ちょっとかわいいワラゾウリ作りを楽しんでいます。

また、去年はボランティア企画で、稲穂でトンボの飾り作りをやりました。事務局のアイデアをいただきながらワラのコースターと組み合わせてやりました。ワラのコースターの上にトンボの飾りをのせると

一つの作品ができあがり良かったです。子どもたちの中から「もういっこ作ってもいい?」といって2個目のトンボを作る子どももみられ良かったです。その他体験広場では、さらさら砂絵、子ども歴史クラブなどたくさんの企画があります。

元気な子どもたちと一緒に話を聞いたり、体験をしたりすることで新しい発見があることから、私のボランティア活動は、興味のあるものから順に参加し、私自身が楽しんでいるといったところです。





山田明美さん

参加者が多かったので、すべての子どもが満足するというふうにはいかなかったと思いますが、皆、デザインを一生懸命考えていたと思います。私も、家で花押を考えてみたのですが、なかなかうまく発想できませんでした。落書きのように、いろいろ書いたり、少し時間を置いたりして、デザインが浮かぶのかなという気がします。時間の限られた中で、

皆工夫して、はじめてのデザインをしていたと思います。この発想中に、どのように声をかけたり、あるいはかけなかったりした方が良いか、ちょっと考えるところです。

また、自分のデザインした花押を発表するとき、発表をしぶる子がいましたが、きっと本人は自分の作品に満足していなかったんだと思います。その子の考えている過程を見ていると、いろいろな案を出して頑張っていました。この頑張りを励ましてやっても良かったかなとも思いました。しかし、あまりふれずに、さらりと流しておくのも良いのかなとも思います。

子どもはそれぞれの年齢で、自分のできることを楽しむことができるんだと思いました。小さい子の方が絵が面白かったりして、私も楽しくなりました。あまり考えすぎずに見守った方が良いのかなと思いました。



大沢博雄さん

新潟県は約7割が森林におおわれて、越後杉をはじめ多様な森林資源が豊富にあります。

私は、このような地元の山で育った自然素材である木を使い、手道具と呼ばれるノコギリ、小刀、トンカチ、ナタ等生活道具により、おもちゃ等を創る木工指導をしています。

木の自然な香りと肌触り等五感で感じながらの工作は、今の子どもたちにとって非常に大切な体験学習となると思っています。今年の夏は民具で見かけることもある「スリコギトンボ」を作ります。洗濯板のように波状のキザギザを棒でござとこする

と、あーら不思議、羽が右回り、左回りします。ノコギリと小刀で一定の形のギサギサを刻みます。このように木工を通じて、刃物を安全に使いこなし物を作り出すことができる、生きる力を育てたいと思っています。



体験プログラム「スリコギトンボをつくろう」

8/11(火) ①13:00～ ②14:30～ 各1時間

スタッフのほか一般参加も歓迎!

★一般参加:要申込み 8/2(日)までメールにて
小学3年生以上各回10人

5/5 塔屋見学会

ゴールデンウィーク中のこどもの日、塔屋見学会を開催しました。前日夕方の雨にドキドキさせられましたが、当日はすっかり快晴となりました。

メインの塔屋見学会のほか、こどもの日にふさわしい体験プログラム「かぶとづくり」、下町の歴史をたどる「まちあるき」、そして今回は敷地・常設ガイドで新たな企画「クイズラリー」にも挑戦しました。

4/26の総会での簡単な打合せのみでの開催でしたが、さすがベテランのみなさんは慣れた様子で対応してくださいました。そんな中に新規の方もさっそく数人参加してくださり、頼もしい限りです。塔屋の特別見学は、秋のボランティアフェスティバルでも予定しています。その際にはまたどうぞよろしくお願いいたします。



左：敷地ガイド・塔屋から外を眺める人々

中央上：塔屋へ昇る急な階段、その誘導係のボランティアさん／中：つつじも見頃／下：常設のクイズラリー受付

右上：塔屋ガイド／中：塔屋見学・まちあるき・敷地クイズラリー総合受付／下：体験プログラム大きな紙を折ってつくるかぶと

【編集後記】

27号は、春の活動のふりかえりと体験ボランティアの日頃の活動について特集しました。体験プログラムなどは小さなイベントが常に開催されているという状況で、みなさまのサポートの力があってこそ成り立っています。ただ、ボランティアさんのコメントにもあったとおり、ぜひそれぞれ興味のあるところを、ともに学び楽しんでご参加いただければ嬉しいです。なお、体験プログラムの一環として話にも出てきた「こども歴史クラブ」は、下記に紹介している「みなとびあ歴史発見プロジェクト」の一つです。今年度から始まったみなとびあの新たな試み、ボランティアのみなさんもぜひご期待・ご協力ください！（中村）

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、まもなく開港150周年を迎える新潟の街をみんなで盛り上げていこう！という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。

